

■ 第3回検討会議における議論のポイント

再開発事業における現在の状況に至る経緯について

- ・市民に対し、再開発事業の流れから無償譲渡に至る経緯を説明することが重要である。
- ・再開発のスキームがキーテナント頼みであり、起こるべくして起こった結果であると思う。
- ・新しい再生を考える場合では、新しい組織で運営していただきたいというのが委員会の意見である。

広域商圈調査等、滝川市の商業環境から見た課題について

- ・滝川市は周辺市町村からの購買力は持っている。
- ・周辺市町村を支えているのはおそらく、郊外店であろう。
- ・市民アンケートではイオンのような商業施設を望んでいる意見もあるが、滝川市内の大型店には、フードコートのような憩いの空間がない。市民はそのような空間を望んでいるのではないか。
- ・アンケート結果でも「食」などを欲しているのには、上記の様な背景があるのではないか。

スマイルビル活用策について

- ・駅前広場再生の検討も行われていることから、交通機能の再生だけではなく、賑わいを醸成する広場として活用できるようなものを具体的に盛り込むことも重要である。
- ・中心市街地活性化協議会でも、スマイルビル再生の担い手となる人材がなかなか見つからない。担い手が存在しないのであれば、本件等委員会での成果も計画で止まってしまう可能性がある。
- ・担い手を発掘していくことが重要になると思われる。
- ・中心市街地活性化協議会に担い手が不足しているのであれば、他の産業の方々（例として農業）にも話をしてみてもどうか。あるいは、起業を考えている人に話をするなど、商業者以外に枠を広げてみてはどうか。
- ・滝川の中心市街地でなければできないことを聞き出して欲しい。
- ・小粒なもので、商店街や郊外店と差別化できるものが重要になる。
- ・大規模開発のような考えではなく、小規模なものを育てていくことも考えられる。
- ・その場合であっても、スマイルビルを含めた駅前のテーマが必要である。
- ・3・3地区とスマイルビルの2極化をベースに、その縁辺部が賑わうような具体的なものが必要である。
- ・行政機能の移転については、機能移転だけではなく、中心市街地にどのような波及があるのか、まちづくりセンターとどのような連携を図ることの可能性について検討してはどうか。